

仕事は正直に、真っすぐに！

大東消防署消防課 消防隊
消防司令補 中村 圭司（平成19年入職）

< 消防士としての心掛け >

私は前職で民間企業に勤務しており設計の仕事に携わっていましたが、憧れであった消防士に26歳の時に就職することができました。

採用後はすぐに消防学校へ入校し、地獄のような日々を送り、半年後現場に配属されると、いつ鳴るか分からない指令トーンへの緊張感を常に感じながら、目の前の業務に必死に取り組んでいたのをよく覚えています。

業務に取り組んでいく中で非常に強く感じた民間業務と公務の違いがあります。それは市民からの信頼や希望の眼差し、つまり、常に見られている職業であるということです。現場で活動する姿は勿論、それ以外でも消防士として人に与える印象は強く、私自身が憧れた部分でもあります。その憧れの消防士になり、次は自分の行動でいろんな人に影響を与える立場になり、行動次第では市民の方からの信頼を失ってしまうということを実感しました。採用され消防士となれば、市民の方からは、上司や先輩、新人といった経歴など関係なく一人の消防士として見られるため、そのことを自覚し責任をもった行動が求められます。そのためには、自分自身をしっかりと律することができるよう、普段の生活から自分自身で決めたことはしっかりと守るということを心掛けることが大切です。



< 初心忘れるべからず >

消防を目指すことになったときの気持ちや、消防士になった時の意気込みや情熱をずっと忘れずに持ち続けてほしいと思います。

実際の業務は自分自身が思い描いていた消防の仕事とはかけ離れたものであるかもしれません。また、年数を重ねるごとに慣れや経験から情熱が薄れてくる時があるかもしれません。そんな時に腐らず自覚と責任をもって業務に取り組めるか。そんな時に、初心を思い返すことで再度気持ちに情熱を灯すことが出来ると思います。

私自身、初心を思い返すきっかけとなったのが大阪府立消防学校へ教官として派遣させていただいたことが大きかったと感じます。派遣当時、消防人生13年目の年で、消防隊、救助隊、救急隊の各隊で様々な災害事案を多数経験し、業務内容に対し、慣れからか少し物足りなさを感じている時でした。

そんなときに教官派遣の話を頂き、厳しい規律や訓練の中、消防士の基礎を習得するために奮闘する初任教育生の姿を見て、当時のがむしゃらに頑張っていた自分の気持ちを思い出しました。また、教官としての自分は新人そのもの。すべての業務において右も左も分からない状態でしたので、とにかく先輩教官の足を引っ張らないように、新人として雑用から訓練、授業内容まで未熟ながら全力で取り組みました。

教官職を経験させて頂き、失敗を恐れず何事にも向かって行く姿勢を大事にしていたことを思い返し、もう一度あの頃の気持ちで一つ一つの仕事に取り組もうと強く思いました。今後、立場や環境が変わっても初心を忘れず常に自分はまだまだ未熟だと節目節目でしっかり思い返したいと思います。

< 組織は人とともに >

最後になりましたが、平成26年度に大東四條畷消防組合が発足し令和3年度で8年目になります。組織としてはまだまだ若くこれからどんどん成長していける組織だと感じます。

「企業は人なり」という言葉があるように、人の成長なくして組織の成長はないと思います。常に意識を高く持ち、人の意見には素直に耳を傾け成長できることが組織の発展に直結すると思います。また、この消防という組織には若い職員のやる気や情熱も必要不可欠です。是非、皆さんのやる気や情熱をこの組織に注いで頂き、私たちと共に成長し今以上の組織へと成長させていきましょう。

それでは、一緒に働けることを楽しみにしています。

